

### Ⅲ ま と め

前回の報告時に今後の観察課題としていたもののうち、産卵場所など分からなかったものもあったが、かなりの部分がわかって来た。ガガイモの生育場所および本種の発生場所共、消長はあったが、全体として1981年より多かった。ただし、これらの場所が必ずしも増加したのではなく、広い堤防のことなので、極く少数しか生えていなかったため、または除草直後のため見落していたものなどが、新たに見付かり、それらで発生していたものが見付かったに過ぎないと思われる。また、武庫川以外の発生箇所は2箇所共、武庫川近辺であったが、武庫川近辺およびもっと離れた他所で今後、見付かるかも知れない。本種は武庫川において年2化と考えられる。群によって発生の時期がかなりずれるようであり、越冬中でも日光浴のため越冬場所から出ているものを見られるので、武庫川では年中どこかで見付けられそうである。飼育により卵自体は分ったので、これを目安にして是非とも産卵場所を見付けたい。なお、更に興味ある知見が得られると思われるので、これらと共に追ってまた報告させていただく。

## キオビホオナガスズメバチ千種町に産す

奥 谷 禎 一

キオビホオナガスズメバチ *Dolichovespula media* は、中部山岳地帯より北部日本にしか分布していないものと思っていたら、1981年佐用町船越の内海功一氏からその巣と破損した1♀(千種町西河内産)が送られてきて、兵庫県にも産することを知った。その後、1982年に西河内の池田和生氏より、詳細な連絡をいただき、同地に分布していることがわかった。同氏の御諒解を得られたので、氏の観察結果を記しておく。

1982年には3巣を発見、今までに通算7巣を見つけている。現在判っている分布域は、西河内だけである。

本種の活動は6月中旬頃よりはじまり、営巣し、8月下旬～9月上旬に巣から離れる。本種の巣は、他のスズメバチ同様な数層の巣盤をつくるが、その数は少ないらしい。巣は多くは灌木の枝につくられ、数枚からなる外房は灰色をしており、外側は縞模様が見られるが、スズメバチ類と異り鱗片状にはならず、薄い膜状である。巣は7月16日観察したもので、径7～8cm、働蜂数約20、単層であった。8月31日観察では、径約15cmで、写真撮影後の台風15号が巣離れを促進したのか、翌朝は空であった。攻撃性は弱く、小型のアシナガバチぐらいである。

1982年9月に得た最大の巣は次の通りであった。

外 房：縦約30cm, 直径約24cm

内 層：3層

	最上層	第2層	
層 径	126 cm	125×120	80×76
房 数	428	398	209
房 径*	4 mm	6 mm	5.6 mm

\* 房径は六角形の平行面の計測値。

この房径から推定すると越年雌は第2層に生じると考えられる。

その後、本種の分布について三重大松浦誠氏に伺った所、発表はないが九州・四国の高地にも分布しているとのことで、兵庫県が分布の西限ではないことを知った。このような比較的大型のハチでも分布状態がよくわからないとは、誠に残念である。

終りに、情報を提供された池田和生氏並びに分布の御教示賜った松浦誠氏に厚く御礼申上げる。

## ハ チ 類 の 方 言

奥 谷 禎 一

近年は図鑑などが普及し方言を用いることが少なくなったが、地方誌の記録として方言も必要ではないかと思うので、千種町西河内の池田和生氏からよせられた方言を記録しておく。方言である以上正確にどの種を指しているかはっきりしない点もあるが、ことわりのない限り千種町あたりの方言である。

おおぐろ：スズメバチ又はヒメスズメバチ

こぐろ：ヒメスズメ又はコガタノスズメバチ

すずめにか：スズメバチ

以上の3種の総称は“くろにか”

あかにか：キイロスズメバチ

あわい：クロスズメバチ

“つちばち” “ささばち” と称する人もある。

おおあしだれ及びあしだれ：セグロアシナガバチ又はキイロアシナガバチ、おおあしだれは後者を指すらしい。

まめのこ：キボシアシナガバチとコアシナガバチ